

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 多人数講義(300人以上)の解消またはそれに替わる措置(院生の張り付け等)を導入する	→多人数講義科目数、多人数講義において張りつけた院生数	B	B	B		
2. 総合政策学科及び国際政策学科におけるゼミ室の設置またはそれに代わる共同ゼミ室を設置する	→ゼミ室等設置状況または検討状況	D	D	C		
3. 2012年度中に無線LANの敷設を終了する	→無線LANの敷設の有無	B	B	B		
4. 2号館2階の研究室スペースの有効活用策を策定し、整備を行う	→有効活用策検討状況および整備状況	D	D	C		
5. 教員に対して外部資金導入を奨励する	→外部資金の獲得件数	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度において、専任教員の授業担当授業時間は若干改善された。また授業補佐の数も増加している。その一方で、多人数講義について一部でまだ解消を見ていない。この問題の解決には、カリキュラムの抜本的な見直しが必要と見られる。現在、2013年度からカリキュラムを抜本的に改訂する準備が進んでおり、改善が期待できる。
目標2	2013年度4月のKSCコモンズ(仮称)の建設にともない、KSC1号館および2号館に生じた空きスペースを演習教室等に転用することで、総合政策学科と国際政策学科のゼミに対して共同ゼミ室を設置する計画が進行中である。遅くとも、2013年秋学期からは供用を開始できるものと思われる。
★ 目標3	現在、多くの教室で無線LANが使用できるようになるなど、IT環境は大きく進展した。今後は、新しい授業支援サイトの整備等によって、教育のITC化が進み、学部教育等の効率化が実現していくものと期待されている。
目標4	上記の目標2と関連するが、KSCコモンズ完成にともない、総合政策・国際政策学科に対する共同ゼミ室設置とともに、KSC2号館の2階スペースの有効利用(主に演習教室に転用)が実現する予定である。
目標5	外部資金の導入については、文科省科研費の獲得も含めて、十分とは言えない現状である。共同研究の体制を整備して、外部資金導入を促進するための制度作りの必要がある。
備考	研究倫理を学部浸透するため、規程の整備や研修会開催、学内審査機関設置等については必ずしも十分とは言えず、引き続き実現に向けて努力が必要であると思われる。

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策学部】			単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	14	9	14	13	13	他に、 (2005、2006、2007、2008年度) 契約助手1 (2009、2010年度) 契約助手2 (2011年度) 契約助手1 (2012年度) 契約助手2
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	6	7	7	9	9	
		授業補佐	人	50	49	53	49	63	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	13.0	11.7	12.6	13.3	11.2	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	14.1	11.2	11.3	10.8	11.2	
		講師	時間	8.0	8.5	8.3	9.3	9.0	
		助教	時間	—	—	—	—	—	